

第 1 号議案「2024 年度法人事業報告」

I、はじめに

能登半島地震から 1 年数か月が経過しました。地域が大きな被害を受け、患者・利用者が大きく減少した輪島診療所では地震直後からの診療、介護事業の展開、全国の支援を受けた地域への訪問や利用者の見守りなどを継続する中で外来患者数は震災前の約 8 割、介護事業は通所介護など震災前を超える利用者となるまでに回復しました。法人各事業所でも避難者受入れや避難者の集いを開催するなど地域・住民の困難に寄り添う活動を継続して取り組んできました。

2024 年度診療報酬改定はベースアップ評価料など職員の処遇改善にあてるものを除き実質 6 回連続のマイナス改定であること、物価高騰の影響も受け、医療・介護の経営環境は大きく悪化しています。日本病院会など医療 6 団体は 3 月に診療報酬改定後の病院の経営状況調査結果発表の中で「このままでは、ある日突然、病院がなくなります」と衝撃的な会見を行っています。

法人の経営面でもこの診療報酬マイナス改定や物価高騰の影響の直撃、依然多発している新型コロナウイルス感染症のクラスター発生による患者・利用者の減少、看護師、介護職員不足による入院患者受入れ制限や介護利用者の新規受入れ困難等で収益が大きく減少しました。

II、2024 年度の事業の到達と評価

2024 年度は、以下の計画に基づき事業を推進しました。

1. 医師の確保と育成、定着

医師確保について医療活動内容と理念の共有を進める、医師の働き方改革に即した労働環境の改善を進める、待遇についての検討、学べる環境を整備する等を掲げました。2024 年開始の医師の働き方改革により城北病院では日直や時間外診療の手当支給から実働時間による評価(超過勤務手当)変更及び日曜勤務や当直の回数制限などを実施しました。一方で医師増員無しの中での回数制限などの変更であり一部の管理医師の当直回数が増加するなど矛盾も発生しています。医師増員無しの働き方改革の弊害が現場で起きており、医師増やせの運動が重要となっています。

育成と定着については、初期研修修了者 1 名が 3 年目以降の専攻医研修に進みました。他病院からの参加 3 名を含め、2025 年 4 月から 4 名の専攻医が城北病院で研修を開始することとなりました。研修の成功と定着に取り組めます。

2. 中期事業計画、損益・資金計画(2024 年度～2028 年度)を策定する

①城北病院の損益構造の改善収益・費用構造の転換、②上荒屋クリニック・ひだまりの今後の事業構想の確定、③健生クリニックの建替え、④寺井病院・手取の里の黒字化、⑤おんぼら～との経営改善を計画として掲げました。

- ① 城北病院の損益構造の改善を目指しましたが度重なる新型コロナウイルス感染症によるアウトブレイクや看護体制の困難による入院患者制限等もあり収益・費用構造の転換は進みませんでした。医師体制の点から24年6月に城北病院と城北診療所の統合を実施し、25年度から新たな入院件数目標、救急搬送年間2000件など新目標を掲げて取り組んでいます。
- ② 上荒屋クリニック・ひだまりの今後の事業構想の確定については屋クリニックについては、医師配置や建物について検討・協議を継続するとともに、2025 年度中に方針を確定すること、有料老人ホームひだまりについては、建物の老朽化、使用期限の点で「2025 年度は現在の事業を継続するが、2026 年度中の閉鎖を予定する」ことを確認し閉鎖に向けて具体化を進めています。
- ③ 健生クリニックの建替えについては、法人全体の医師体制・経営状況のもとで医療・介護活動方針とまちづくりの検討、建替え課題を凍結せざるをえないと判断し建設計画の具体化は進みませんでした。建物・設備の老朽化は期限もあり、既存建物の利用など専門家の知見と資金の検討による方針確立を2025年度の課題とします。
- ④ 寺井病院・手取の里の黒字化を目標として掲げました。寺井病院は年間を通じて入院病床の高稼働率がありましたが、クラスターの発生や外来収益の予算未達などもあり黒字に若干届きませんでした。リハビリの体制は25年度強化する予定となっています。手取の里は上半期に入所で震災被災者をオーバーベッドでの受入れ、通所リハ利用人数増により増収となり損益は改善しましたが下半期は入所稼働率の低下もあり赤字実績となりました。
- ⑤ おんぼら〜との経営改善の具体化では年間を通じて利用者の確保と費用の削減の結果赤字幅を圧縮しました。家賃負担や建物の老朽化による修繕費の発生もあり構造的な転換には至っていません。

Ⅲ、2024 年度の特徴的な取り組み

1) 医師体制

2024 年 4 月は 3 名、2025 年 4 月は 3 名の初期研修医と 3 名の専攻医が入職し 4 名が研修をすすめています。既卒医師は 2024 年 1 月に常勤医師（城北病院）1 名を迎えました。

2) 医科事業

外来患者延数は、法人合計で予算比 96.2%、前年比 96.5%とこの間の減少傾向が継続しています。城北診療所（城北病院外来棟）で医師体制の変更や休診が多く発生し患者減の要因となりました。輪島診療所は震災の影響で年間で前年比 85.7%となりました。

外来患者数(人)	実績	予算	予算差	予算比	前年実績	前年差	前年比
法人合計	193,891	201,512	▲ 7,621	96.2%	200,838	▲ 6,947	96.5%

法人合計で入院延べ患者数は予算を下回りました。前年比では 103.6%と増加しました。城北病院は予算比 96.9%、寺井病院は予算比 99.9%とほぼ予算を確保しました。2024 年度も城北病院・

寺井病院ともに新型コロナウイルス感染症によるクラスター発生や看護体制困難による受け入れ制限があり予算を下回る結果となっています。

入院患者数(人)	24実績	予算	予算差	予算比	前年実績	前年差	前年比
法人合計	119,311	122,554	▲ 3,243	97.4%	115,113	4,198	103.6%
城北病院	100,110	103,335	▲ 3,225	96.9%	95,801	4,309	104.5%
寺井病院	19,201	19,219	▲ 18	99.9%	19,312	▲ 111	99.4%

3) 介護事業

介護事業所全体で利用者数の予算未達が継続しています。特に通所リハビリテーション（予算比 97.1%）・通所介護（予算比 93.8%）で利用者確保に苦戦しています。各事業所での介護職員や介護支援専門員確保の困難が続き、ケアプランを増やすことができない、羽咋診療所訪問介護・通所介護など人員減のため新規を受け入れられない事業所もありました。建物老朽化の有料老人ホームひだまりの廃止の方針を明確にし、利用者の転居先の紹介や職員の異動先の検討等、具体化をすすめました。

4) 無料・低額診療事業

法人全体としての利用率 10%超を目指していますが、2024 年度は 10.4%となりました（前年度 10.8%）。

5) 職員等の確保と育成

学生の卒業もあり 2025 年 4 月 1 日現在の、石川民医連(医科)医師奨学生は 6 年生 1 名、4 年生 1 名の 2 名となっています。医学生担当責任者を事務管理者が兼務となっていること、担当者の配置不足していることなど、体制強化が急務になっています。4 月半ばに地元金沢大学で奨学生 1 名が誕生し合計 3 名となりましたが、引き続き奨学生増の対策、目標と行動計画、時期を明確にして具体化をはかっていく必要があります。

歯学生の奨学生は、県外大学に 6 年生 1 名、5 年生 1 名、2 年生が 1 名と増加しました。奨学生の養成に合わせた今後の法人歯科事業の展開について事業計画の立案が必要です。

法人各事業所で看護師不足が顕著となり、確保が最需要課題となっています。2024 年度城北病院の常勤看護職員の採用は 10 名（うち新卒 5 名）、退職 17 名（うち新卒 2 名、定年 1 名）で、離職率は 6.4%で全国平均の 10～11%台と比較して低いものの、中途採用が少なく、退職者数を補うことが出来ていません。日勤のみの常勤を希望する看護師が多いこと、夜勤は 2 交代を希望する看護師が多いことで選択肢されにくいという実態もあります。職員紹介制度での入職者は 0 名（23 年度は 2 名）でした。夜勤可能な看護師の確保は非常に厳しく城北病院での夜勤は通常の 8 回を超えていますが、全国的にも喫緊の課題となっており処遇改善を求めて署名を集め、春と秋のナースアクションで国会要請行動もおこなっ

てきました。

看護奨学生は5名となっています。奨学生会議では、能登半島地震における民医連の役割を学習し、友人を誘って自主的に地域訪問に参加するなどの活動が取り組まれました。健康まつりで奨学生が学費無償化の署名を訴えました。高校生1日医療体験は春と夏に100人を超える参加、看護学校受験模擬面接会には40名の参加がありました。今後も中学生・高校生から看護師という職業に触れ、目指す学生を増やすとりくみ、石川民医連の医療に共感してもらえるような関わりが必要です。

介護職員は、2024年4月は、新卒者の受け入れはありませんでした。

7) 歯科

非常勤医師から常勤医師への雇用形態の変更もあり常勤医師は3名体制となりました。引き続き土曜日は休診となっています。限られた体制の中で診療体制の維持、自費治療や困難な症例への対応に向けて、予約枠の工夫や衛生士部門での収益増等事業所内で具体化してきました。法人内事業所との連携では城北病院病棟での口腔ケア学習会講師や往診、老健手取の里への口腔ケア拡大（口腔衛生加算算定の拡大）などを具体化しています。

6) 共同組織（友の会）との共同の取り組み

石川県健康友の会連合会は今年結成10周年を迎えました。24年度は能登地震被災者の支援に法人とともに全県で取り組んできました。全日本民医連の支援も受けて春の会員訪問行動に取り組み、豪雨災害後には職員とともに支援行動に参加し会員宅の泥出しや片付けに取り組みました。全日本民医連の支援を受け、秋にも会員再訪問活動が取り組まれ避難者の生活状況と要望の把握に取り組みました。広域避難者の集いが金沢地域でも継続され地域サロンや健康まつりへの参加など友の会活動の輪に加わりつながる場となっています。

支部活動や班会活動がコロナ禍を乗り越えて開催され、友の会と事業所職員が協力して健康まつりやお出かけ行事に取り組む中で新しい参加者も増加しました。

組織拡大では51,000人の会員を目指す目標に対して49,149人（前年差▲558人）の到達となりました。いつでも元気誌の購読数は、2025年4月号で1,715部（前年4月号は1,735部）と、20部減少しました。

7) 資金結集

寄付金は目標1,500万円に対し474件（前年299件）、1,913万円（同1,871万円）の協力があり、目標を超過達成しました。能登半島地震を受けた法人と輪島診療所の支援を訴えたり一フレットを作成・活用したこともあり目標・前年を超過する結果となりました。

協同基金は目標1億円を超える協力がありました。「積立」参加は2024年3月末879件から2025年2月941件と増加しました。

2024 年度 法人運営資料

① 総会開催

2024 年 6 月 23 日（日）開催。会員総数 172 名中、出席会員数 131 名（うち委任状 81 名）。

② 理事会開催 （ ）は出席者数

5 月 25 日 （理事 15 名 監事 3 名）能登半島地震対応・総会議案
 6 月 8 日 （理事 17 名 監事 3 名）総会議案、23 年度決算
 7 月 27 日 （理事 19 名 監事 3 名）総会総括・経営改善
 9 月 28 日 （理事 16 名 監事 3 名）経営改善・事業計画具体化
 10 月 26 日 （理事 14 名 監事 3 名）経営改善・事業計画具体化・共同組織月間
 12 月 28 日 （理事 20 名 監事 3 名）経営改善・事業計画具体化・共同組織月間
 2 月 22 日 （理事 19 名 監事 3 名）経営改善・事業計画具体化
 3 月 22 日 （理事 18 名 監事 3 名）事業計画、予算の決定

③ 監事による監査

期中監査 2024 年 10 月 16 日～11 月 28 日 本部と全事業所

期末監査 2025 年 5 月 26 日～5 月 28 日 本部と全事業所

④ 法人会員の動態

【退会】 7 名、【入会】 3 名【会員数】 168 名

（2025 年 3 月末現在）

	奥能登	能登 中部	金沢北	金沢南	金沢西	南加賀	小松 南部	本部	計
地域	6	10	19	14	11	16	3	5	84
職員	4	5	27	11	6	12	3	16	84
計	10	15	46	25	17	28	6	21	168

⑤ 前回定時総会以降の法人会員の物故者（敬称略）

樋口 誠也 南加賀 筋 也寸志 金沢北 深井 信子 金沢北
 酒井 秀明 金沢西 和田 洋子 金沢北

⑥ 2024 年度の無料低額診療の動態

	延利用者件数	前年	前年差
生活保護	21,966	22,907	▲ 941
無料低額診療	8,617	8,364	253
合計	30,583	31,271	▲ 688
対延患者数比	10.4%	10.8%	

⑦ 2024 年度共同組織の会員数

	2017年度末	2018年度末	2019年度末	2020年度末	2021年度末	2022年度末	2023年度末	2024年度末
奥能登	6,920	6,819	6,676	6,417	6,300	6,154	6,060	5,619
中能登	5,973	5,935	5,883	5,830	5,445	5,338	5,206	5,075
金沢北	13,049	13,333	13,571	13,595	13,247	13,084	13,161	13,166
金沢東	1,987	2,083	2,130	2,220	2,183	2,173	2,213	2,307
金沢南	6,457	6,646	6,815	6,885	6,663	6,640	6,633	6,707
金沢西	7,110	7,283	7,421	7,562	7,550	7,555	7,696	7,710
南加賀	8,229	8,382	8,461	8,524	8,343	8,287	8,201	8,031
県外	605	608	614	604	579	545	537	534
合計	50,330	51,089	51,571	51,637	50,310	49,776	49,707	49,149
前年差	—	759	482	66	▲ 1,327	▲ 534	▲ 69	▲ 558